

第9回（平成28年度第1回）
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会
《会議次第》

日時：平成28年5月9日(月)18:30～

場所：市庁舎3階303会議室

1. 開 会

2. 協議事項

(1) セーフコミュニティ外傷発生調査結果について P1～

(2) 平成28年度セーフコミュニティ推進計画について

①平成28年度セーフコミュニティ推進スケジュールについて P27～

②これまでの取り組みに関する効果確認・改善について P28～

3. その他

4. 閉 会

〈参考資料〉

- | | |
|----------------------------|-----|
| ①久留米市セーフコミュニティ推進協議会委員名簿 | P1～ |
| ②久留米市セーフコミュニティ推進対策委員会委員名簿 | P3～ |
| ③6分野・10項目・48施策・8対策委員会の用語一覧 | P5～ |

外傷等動向調査委員会 委員名簿(敬称略・順不同)

	団 体 名	役 職	氏 名
委員	久留米大学	医学部教授	足 達 寿
委員	一般社団法人久留米医師会	理事	浅 倉 敏 明
委員	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	救命救急センター長	山 下 寿
委員	久留米広域消防本部	救急防災課長	※平 木 重 晃
委員	久留米市保健所	所長	内 藤 美 智 子
委員	久留米市	協働推進部長	長 嶋 正 明

※ 新委員

〈事務局〉 久留米市 協働推進部 安全安心推進課
久留米市 健康福祉部 保健所総務医薬課

1. 調査の背景と目的

セーフコミュニティは、データに基づく取り組みであるから、その基礎である「外傷の頻度と原因を記録する仕組み」が非常に重要である。

従来、外傷の発生状況を把握する仕組みとして、比較的重症な外傷は、久留米広域消防本部が収集する「救急搬送データ」から、比較的軽症な外傷や日常生活の中で発生する外傷は、3年毎に実施する「久留米市民の事故やケガなどについての実態調査」(以下「実態調査」)から把握してきた。しかし、「実態調査」では、過去1年間のケガを対象にアンケートを実施しているため、時間の経過とともに「けがの状況・原因・けがに関与したモノ」等の記憶の薄れなどが生じて、データの不透明さが懸念される部分があった。

そこで、「外傷の発生後に医療機関を訪れる外来患者へのアンケート」(以下「外傷発生調査」)を実施し、データの鮮度と精度を高めながら、多面的にデータを収集・分析することで、外傷データの収集体系を構築するとともに、より効果的なデータ収集方法についての研究や、現在実践している予防活動の効果・影響等を測定・評価するために実施するものである。

- ## 2. 調査の概要
- | | |
|-------|--|
| ①対象者 | 外傷等で医療機関に自主外来された初診の患者(又は付き添い・家族) |
| ②調査内容 | 患者:けがをした状況(原因、場所、行動等)、医師:傷病名、傷病部位、処置見込 |
| ③調査期間 | 平成27年10月から12月の3ヶ月間 |
| ④医療機関 | 久留米医師会に属する整形外科、外科など外傷に関係が深いと思われる5医療機関 |

- ## 3. 回収結果
- | | |
|--------|---|
| ①回答件数 | 261件 |
| ②住所 | 市内:241人(92.3%)、市外:15人(5.7%)、無回答:5人 |
| ③ケガの場所 | 市内:239人(91.6%)、市外:17人(6.5%)、無回答:5人 |
| ④性別 | 男性:115人(44%)、女性:146人(56%) |
| ⑤年齢別 | 0~14歳:52人(20%)、15~24歳:34人(13%)、25~64歳:98人(37.5%)、65歳以上:76人(29.1%)、不明:1人 |

4. 考 察

今回実施した「外傷発生調査」は、「全ての年齢・性別・環境・状況をカバーする」セーフコミュニティの理念と一致しており、「外傷の頻度と原因を記録する仕組み」としては、最も効果的な調査であることが伺える。しかし、調査を実施する上で下記のような課題も見られた。

また、「外傷発生調査」と「実態調査」の比較では、外傷の環境・状況等においては、両調査とも同様の結果が出ているため、当初懸念していた「実態調査」についての不透明さは払拭された。しかし「実態調査」は、久留米市在住の満20歳以上の男女を無作為に抽出しており、「すべての年齢」を把握するまでのデータには至っておらず、データ収集方法について改善していく余地がある。

そこで、予防活動の効果・影響等を測定・評価を行い、活動の質を高めていくためには、両調査のそれぞれの課題を解決しながら、より効果的な外傷データの収集方法を検討するとともに、調査項目・内容の精査を図ることが必要であると判断し、外傷等動向調査委員会での専門的な助言をお願いするものである。

<「外傷発生調査」実施上の課題>

①調査協力医療機関の負担軽減

→市や医師会が所有する既存のデータ等（レセプト等）を活用すればいいのではないか【協力された医療機関での意見】
(その後、レセプトを確認したところ、傷病名は把握できるが外傷に至った環境・状況は把握できなかった。)

②有効なデータ収集のための医療機関の選定

→今回はモデル的に整形外科の5医療機関に限定したため、地域別の比較ができない。

③調査項目及び内容の精査（収集データ間の項目調整を含む）

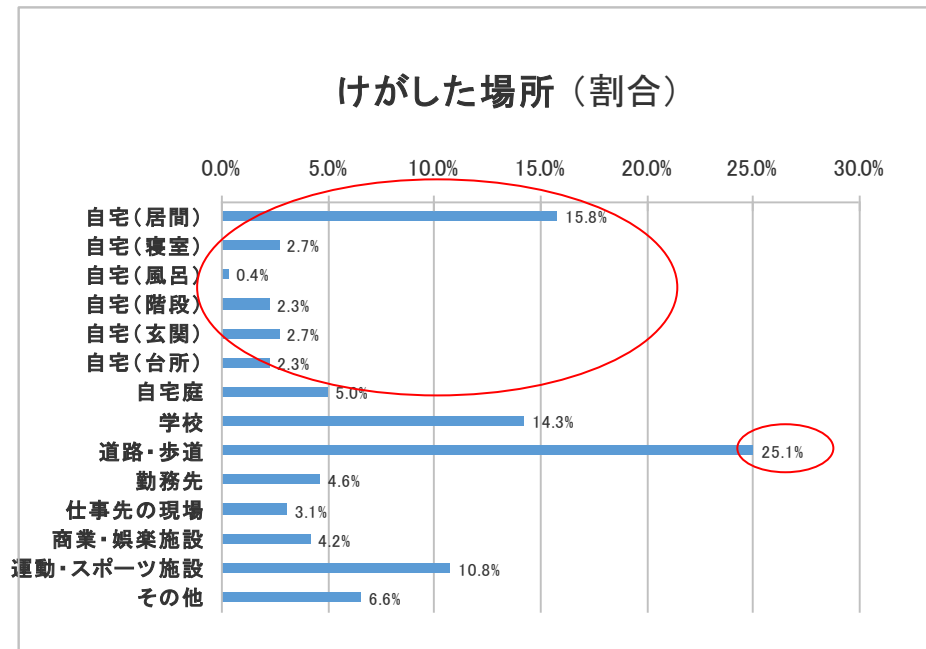
→ 例:「Q3.けがをしたとき、何をしていましたか」の項目に、「通勤・仕事(行動)」と「自転車運転(移動手段)」の回答があり、混同していた。

(1) 「久留米市民の事故やけがなどについての実態調査」との比較

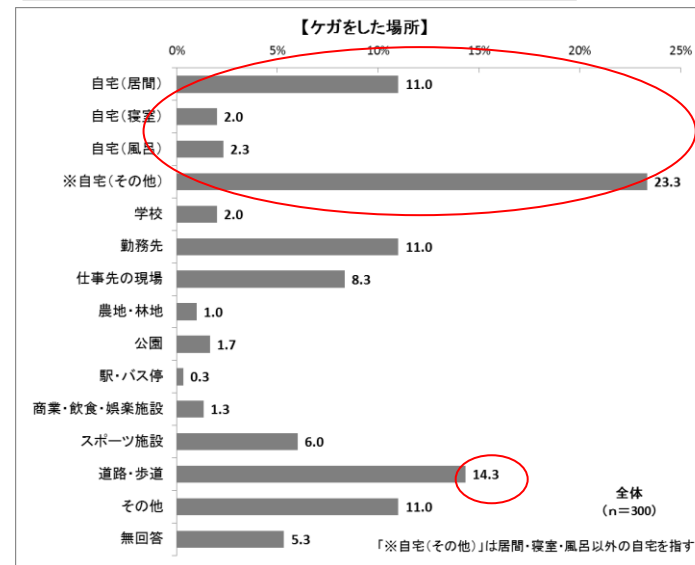
◆けがした場所

(調査票②「どこでけがをしましたか?」)

今回の外傷発生調査



平成 26 年度ケガや事故についての実態調査

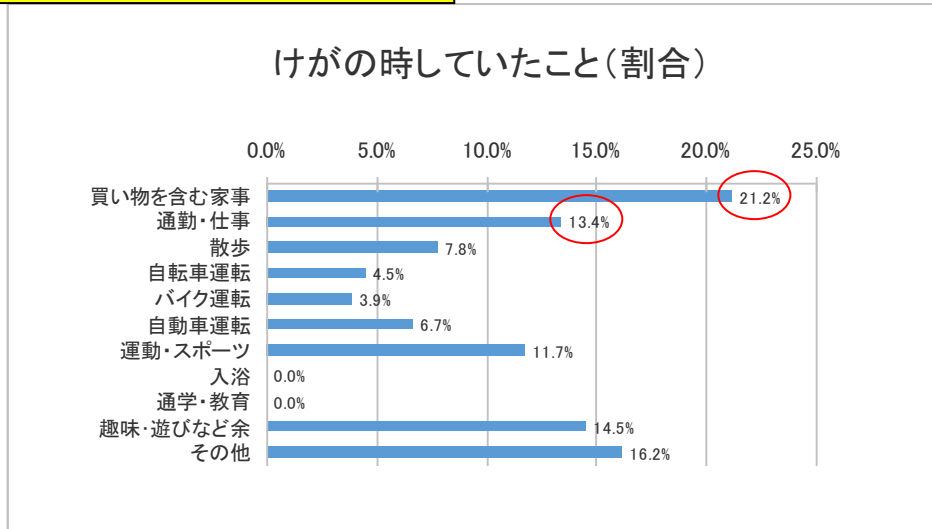


「けがをした場所」ではいずれも「自宅」や「道路・歩道」が多い。

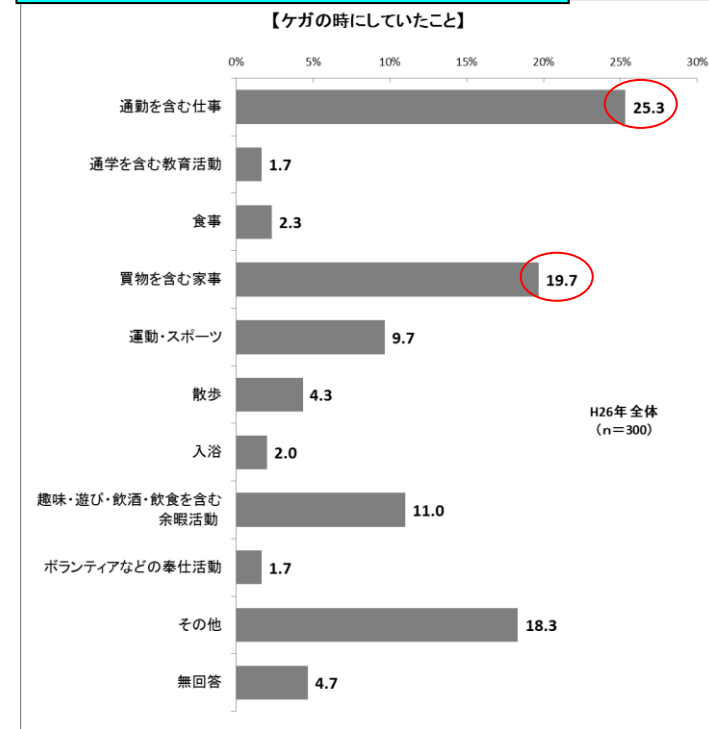
◆けがの時にしていたこと

(調査票③「けがをしたとき、何をしていましたか?」)

今回の外傷発生調査 (20 歳以上)



平成 26 年度ケガや事故についての実態調査

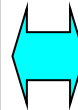
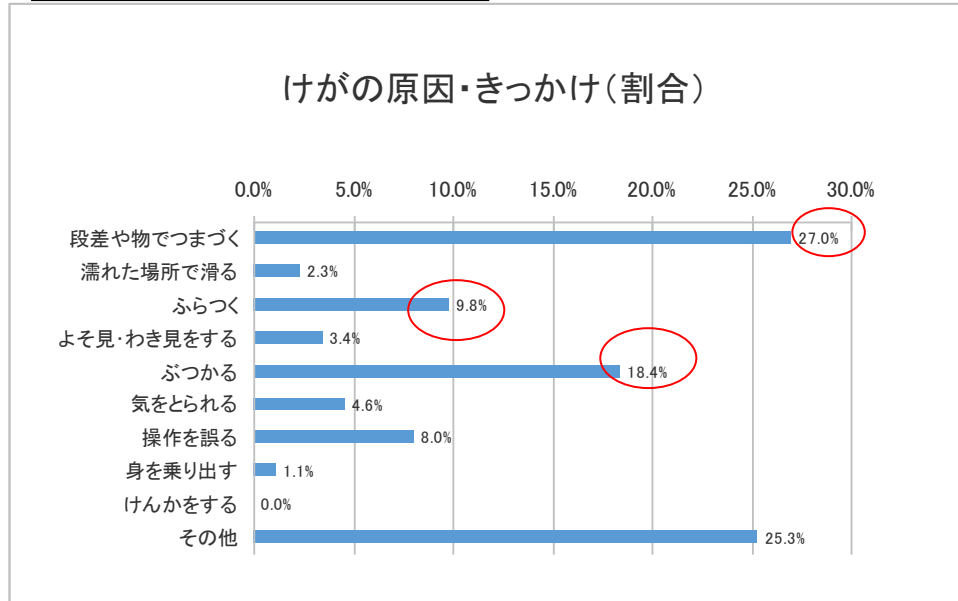


「けがの時していたこと」は、いずれも「家事」や「通勤・仕事」が多い。

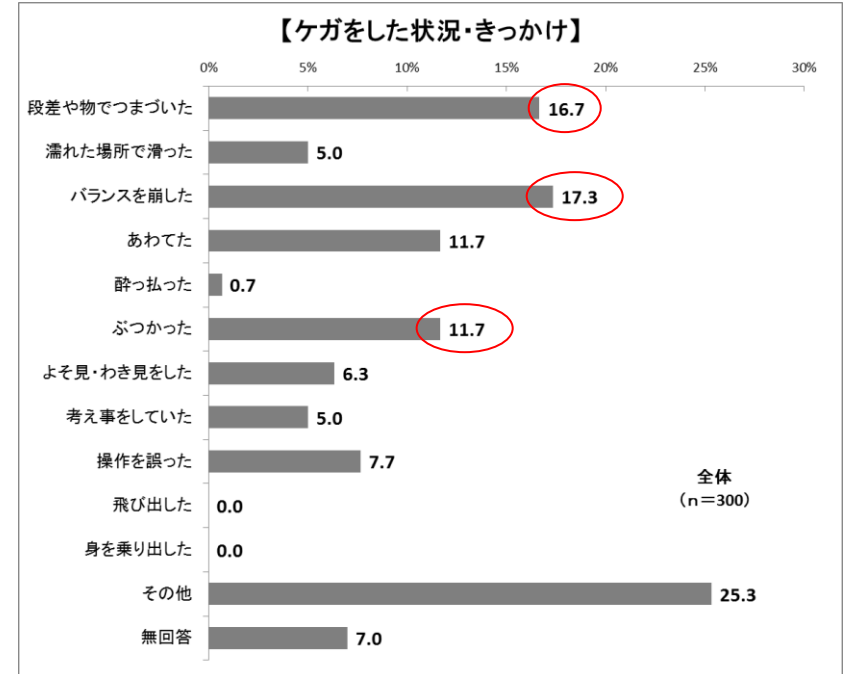
◆けがの原因・きっかけ

(調査票④「けがをした原因・きっかけは何ですか?」)

今回の外傷発生調査(20歳以上)



平成26年度ケガや事故についての実態調査

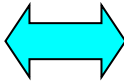
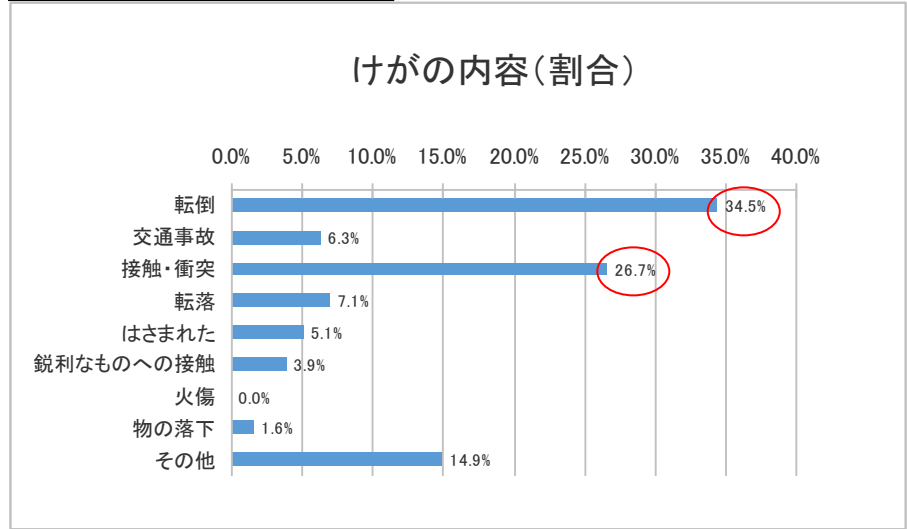


「けがの原因・きっかけ」は、「段差や物でつまづく」、「ふらつく」、「ぶつかる」が多い。

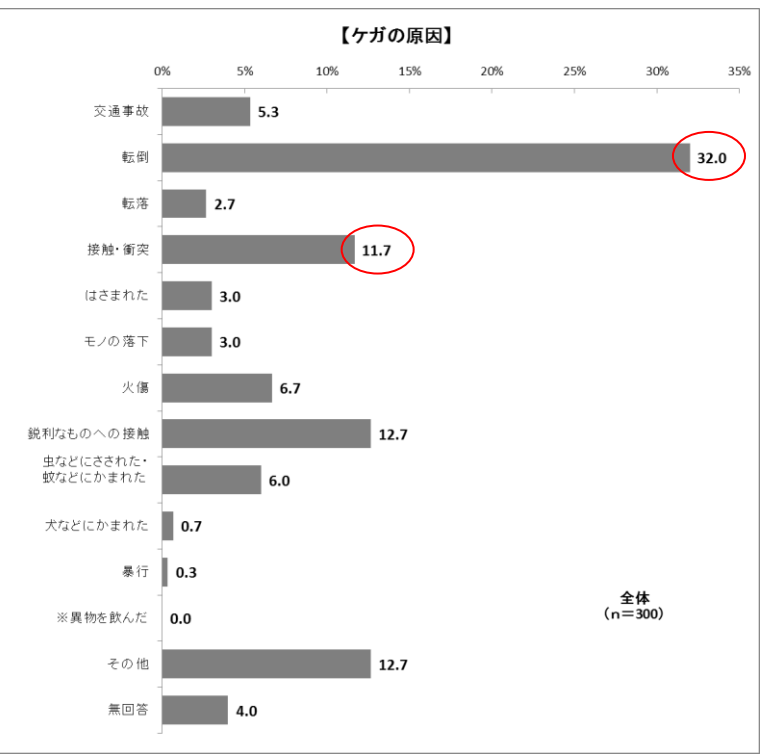
◆ けがの原因

(調査票⑤「その結果、どのようにけがをしましたか?」)

今回の外傷発生調査(全体)



平成 26 年度ケガや事故についての実態調査

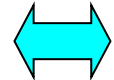
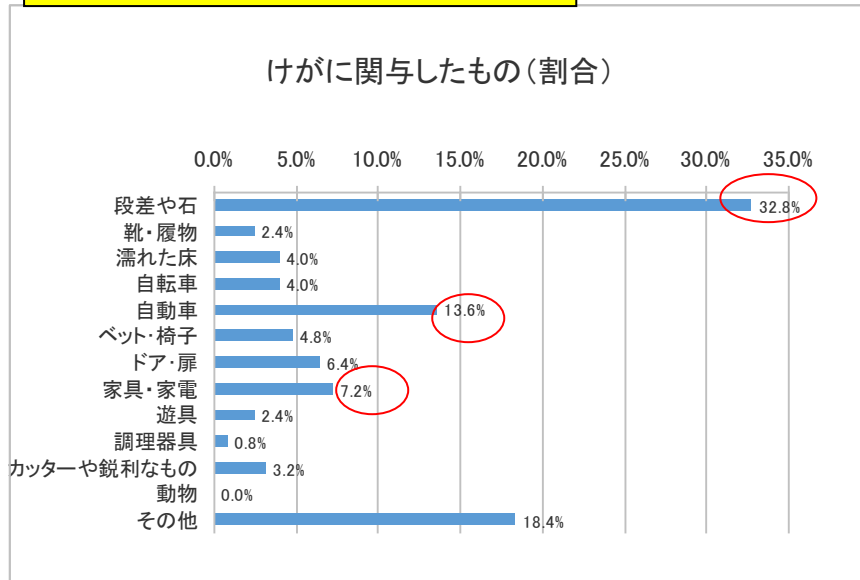


「ケガの原因」は、「転倒」、「接触・衝突」が多い。

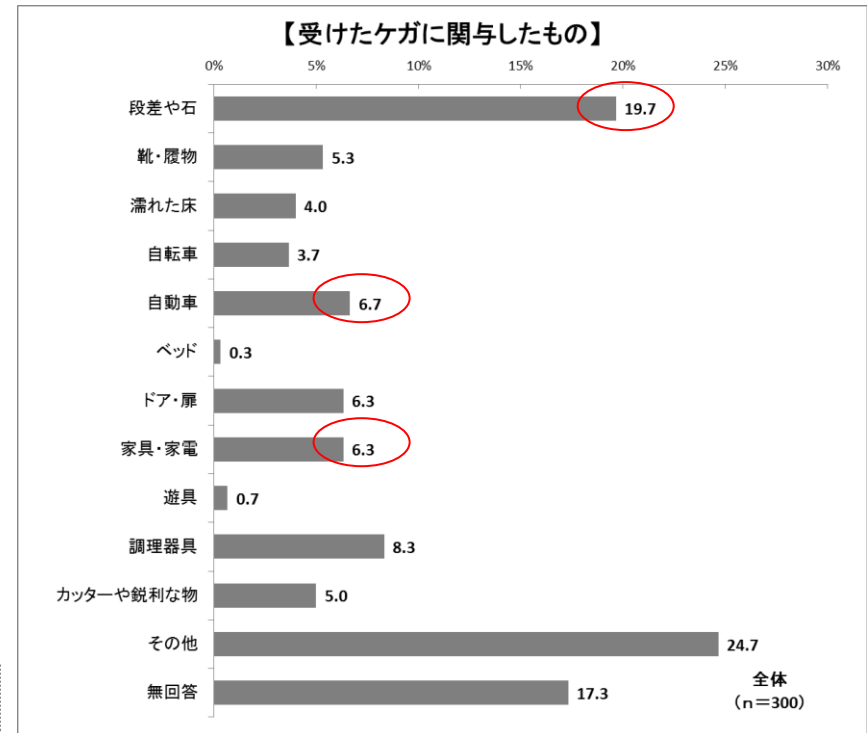
◆受けたけがに關与したもの

(調査票⑥「受けたけがに關与したモノがあれば、それは何ですか?」)

今回の外傷発生調査(20歳以上)



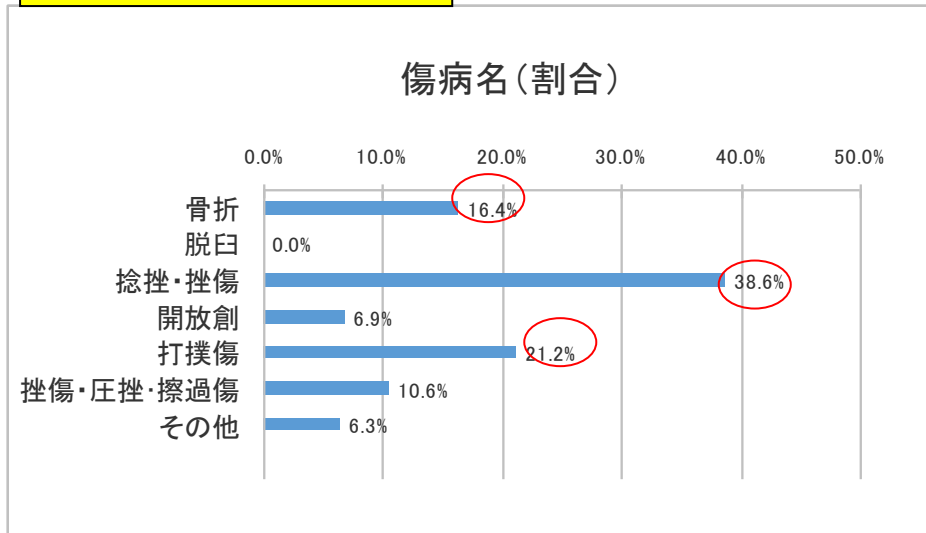
平成26年度ケガや事故についての実態調査



「ケガに關与したもの」は、「段差や石」、「自動車」、「家具家電」が多い。

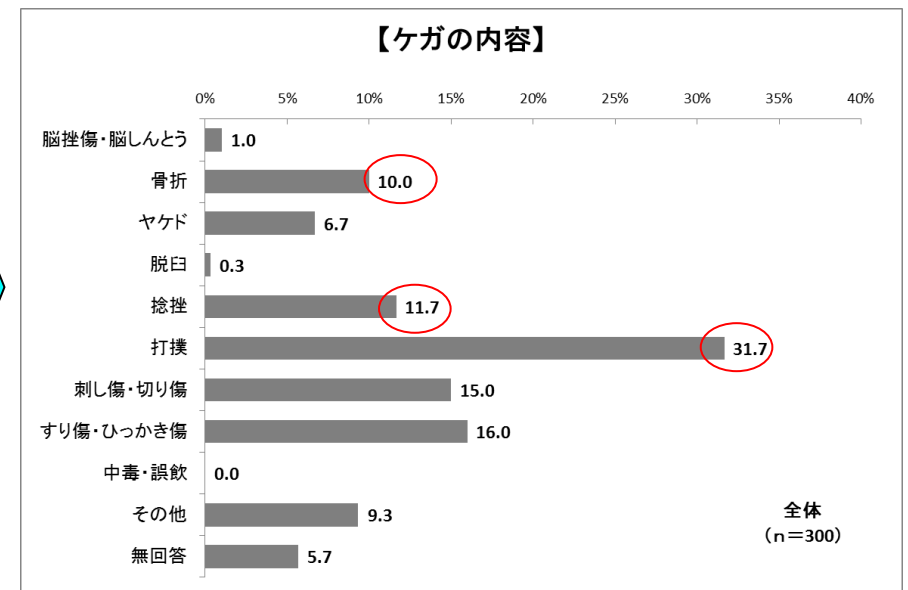
◆傷病名（医師記入例）

今回の外傷発生調査(20歳以上)



「傷病名」は、「骨折」、「捻挫・挫傷」、「打撲」が多い。

平成26年度ケガや事故についての実態調査

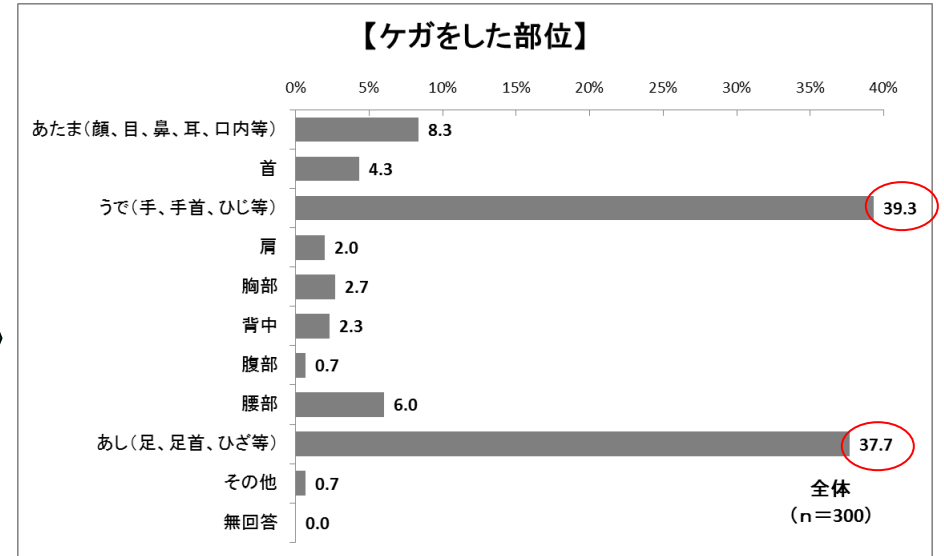


◆傷病部位（医師記入欄）

今回の外傷発生調査(20歳以上)



平成26年度ケガや事故についての実態調査



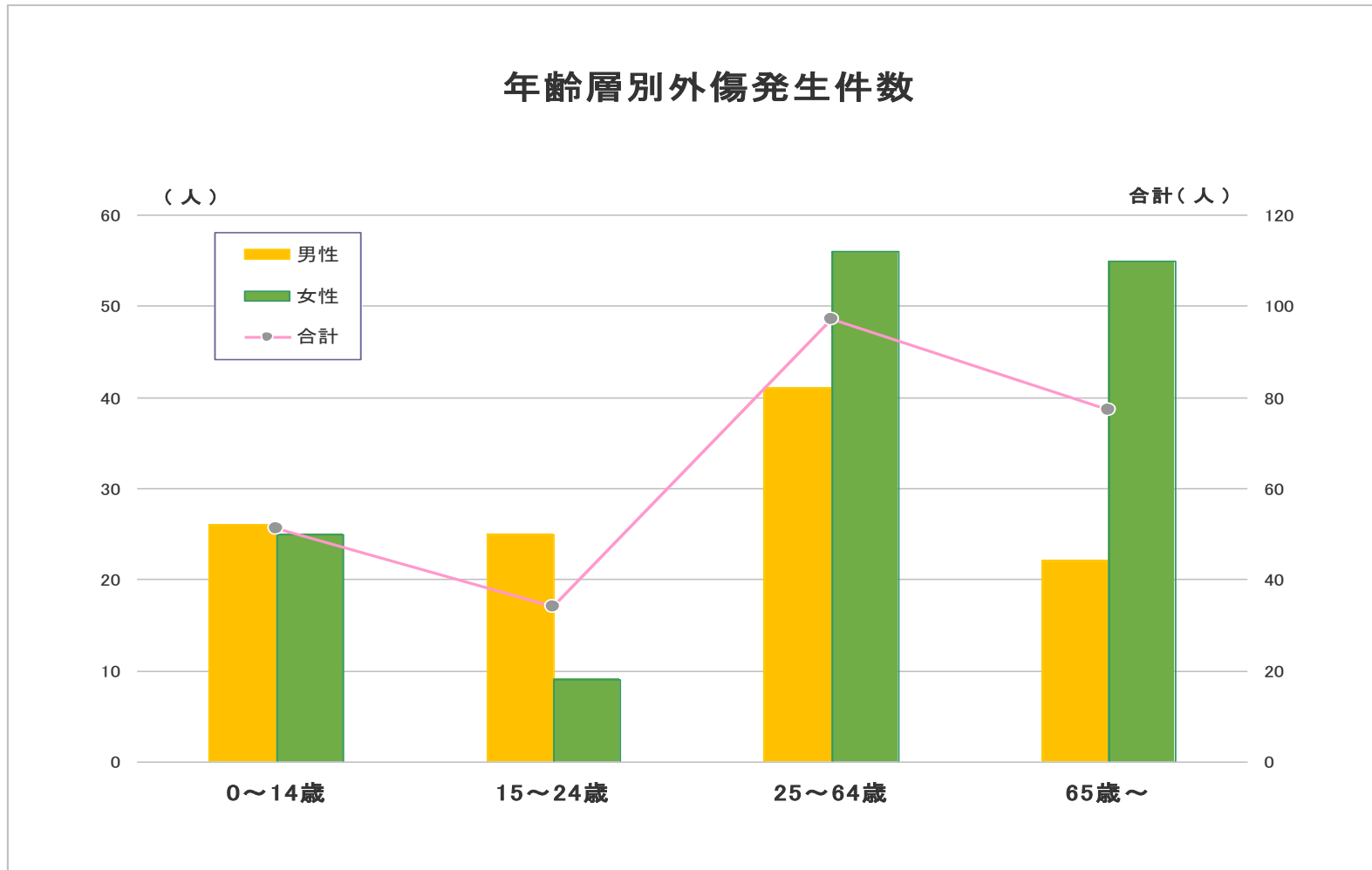
「傷病部位」としては、「うで」や「あし」が多い。

<資料編>

「外傷発生調査」結果詳細

①年齢区分別外傷発生件数

- ・男性では「25～64歳」、女性では「25～64歳」や「65歳以上」で外傷の発生が多くなっている。



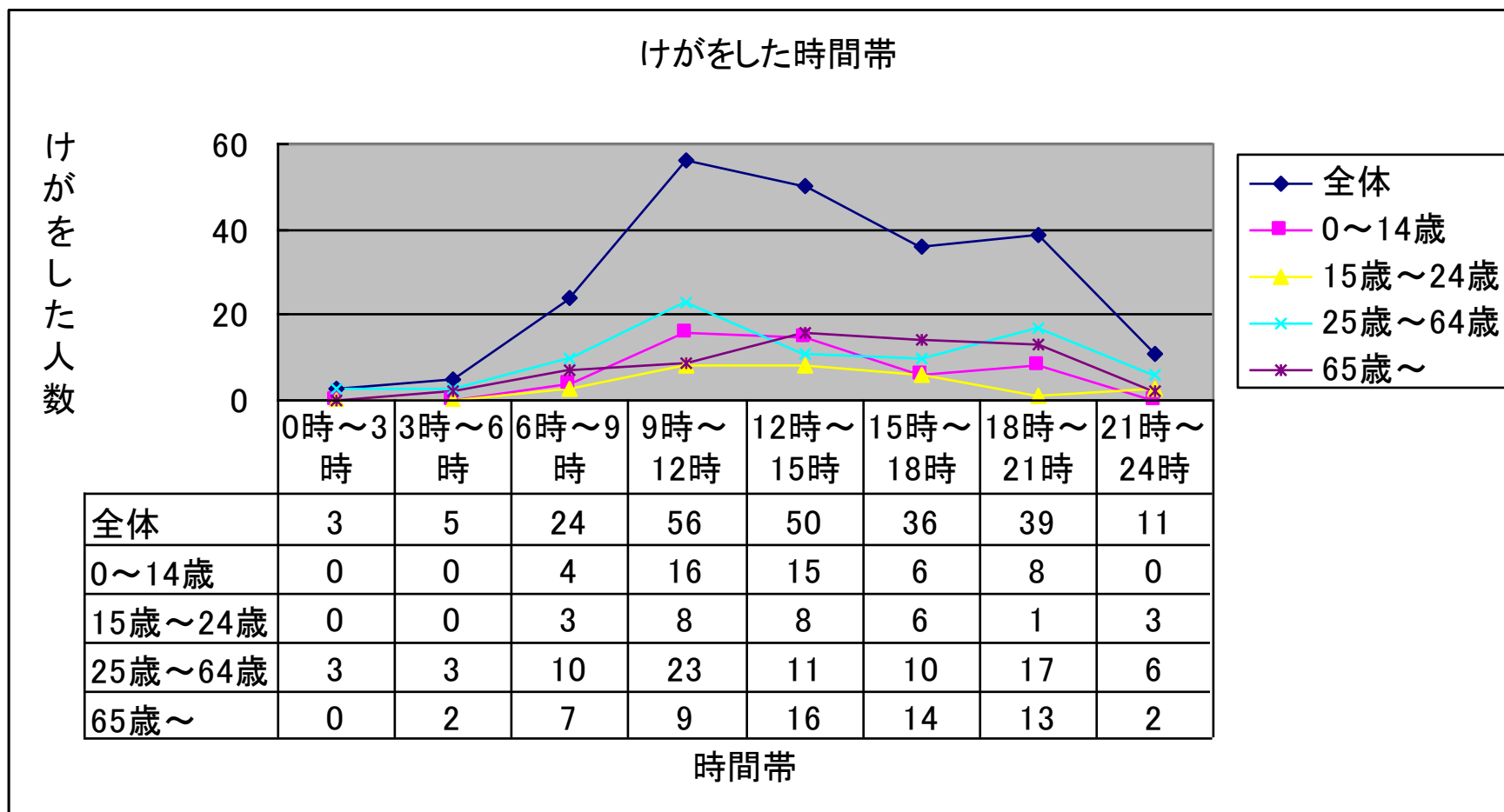
②けがをした時間帯と年齢区分別の集計

[時間帯区別]

- ・ケガした時間帯は、「9時～12時」や「12時～15時」が多い。

[年齢区分別]

- ・年齢区分別に見ると、14歳以下では「9時～15時」、65歳以上では「12時～21時」の時間帯が比較的多い。



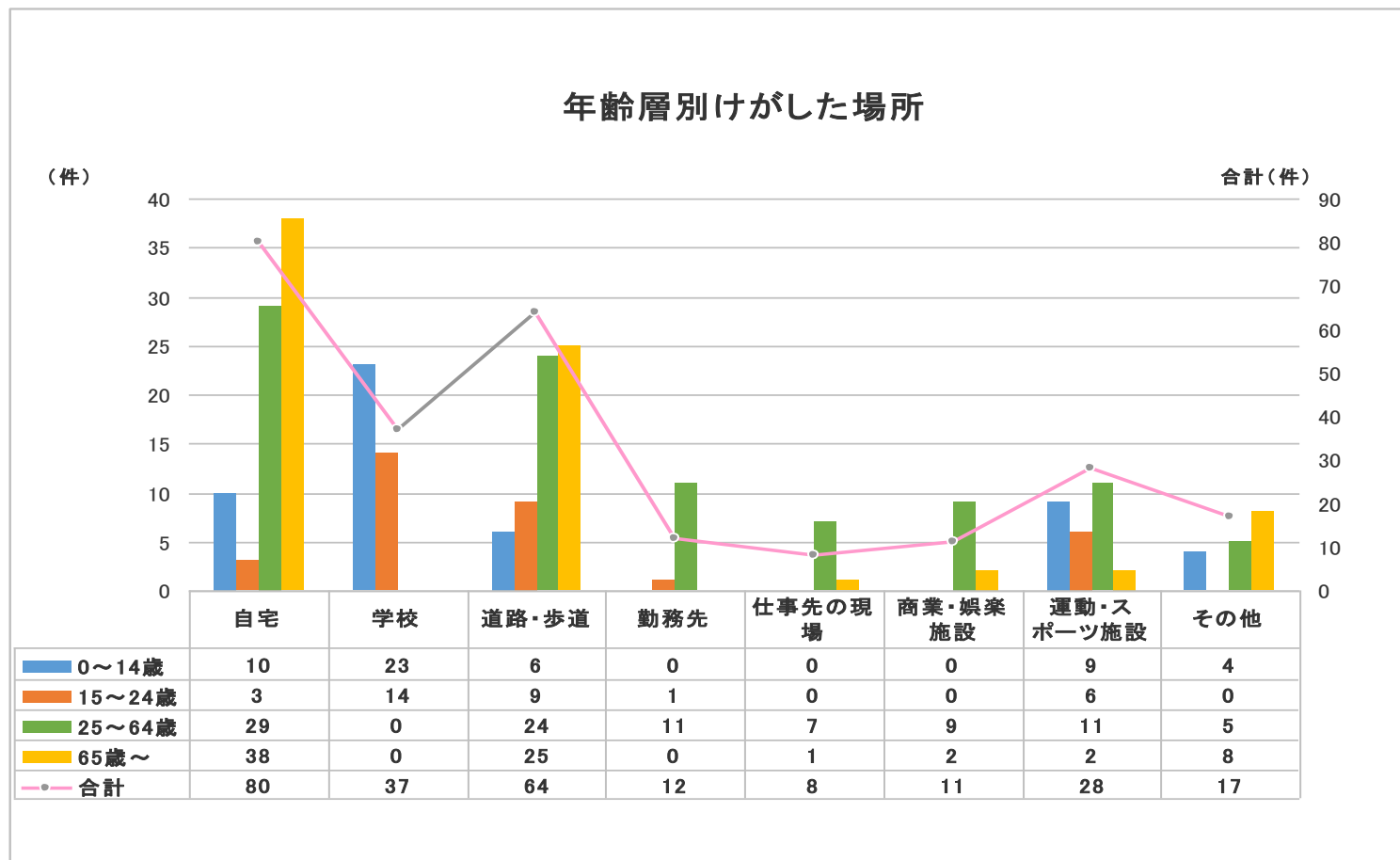
③-1 ケガをした場所と年齢区分別の集計

[ケガをした場所]

- ・ケガした場所は、「自宅」が最も多く、次いで「道路歩道」が多い。

[年齢区分別]

- ・年齢区分別に見ると、24歳以下では「学校」、25歳以上では「自宅」や「道路・歩道」が多い。



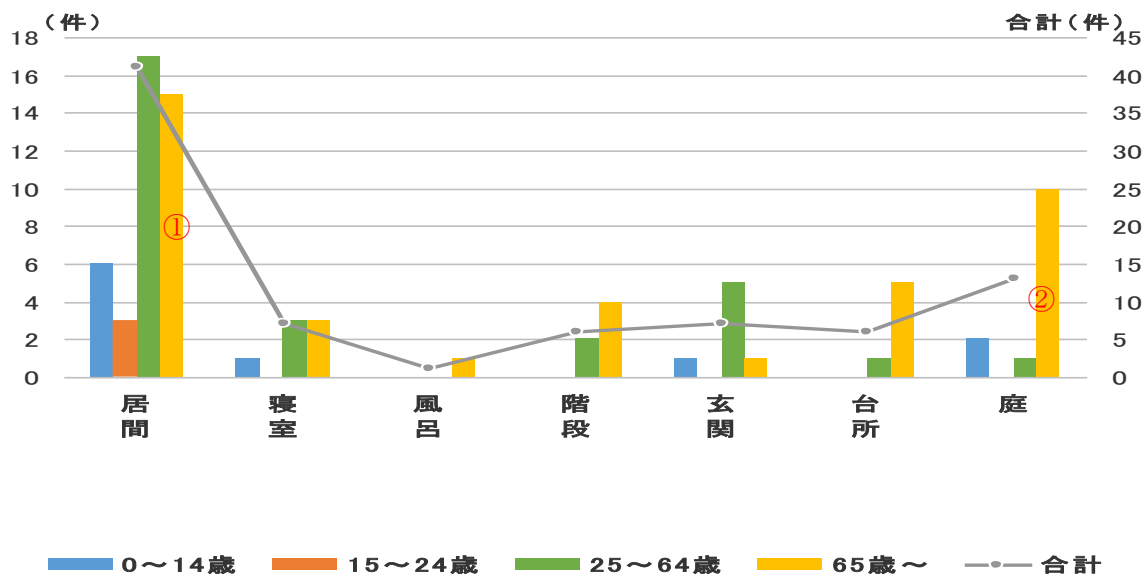
③-2 自宅内のケガをした場所

[全体] ・自宅内のケガした場所は、「居間」が最も多く、次いで「庭」が多い。

[年齢区分別] ・年齢区分別に見ると、25～64歳では「居間」が最も多く、65歳以上では「自宅庭」でのケガも多い。

・65歳以上の「居間」や「庭」でのケガの内容は「転倒」が最も多く、その原因は「ふらつく」や「段差や物につまづく」が多い。

年齢層別自宅内けがした場所



※① 65歳以上の居間でのけが

ケガの内容	ケガの原因
転倒 (7)	・ふらつく (4) ・段差や物につまづく (2)
接触・衝突 (6)	・よそ見 (1)

※② 65歳以上の庭でのけが

ケガの内容	ケガの原因
転倒 (8)	・ふらつく (2) ・段差や物につまづく (3)、 気をとられた (1)
接触・衝突 (1)	

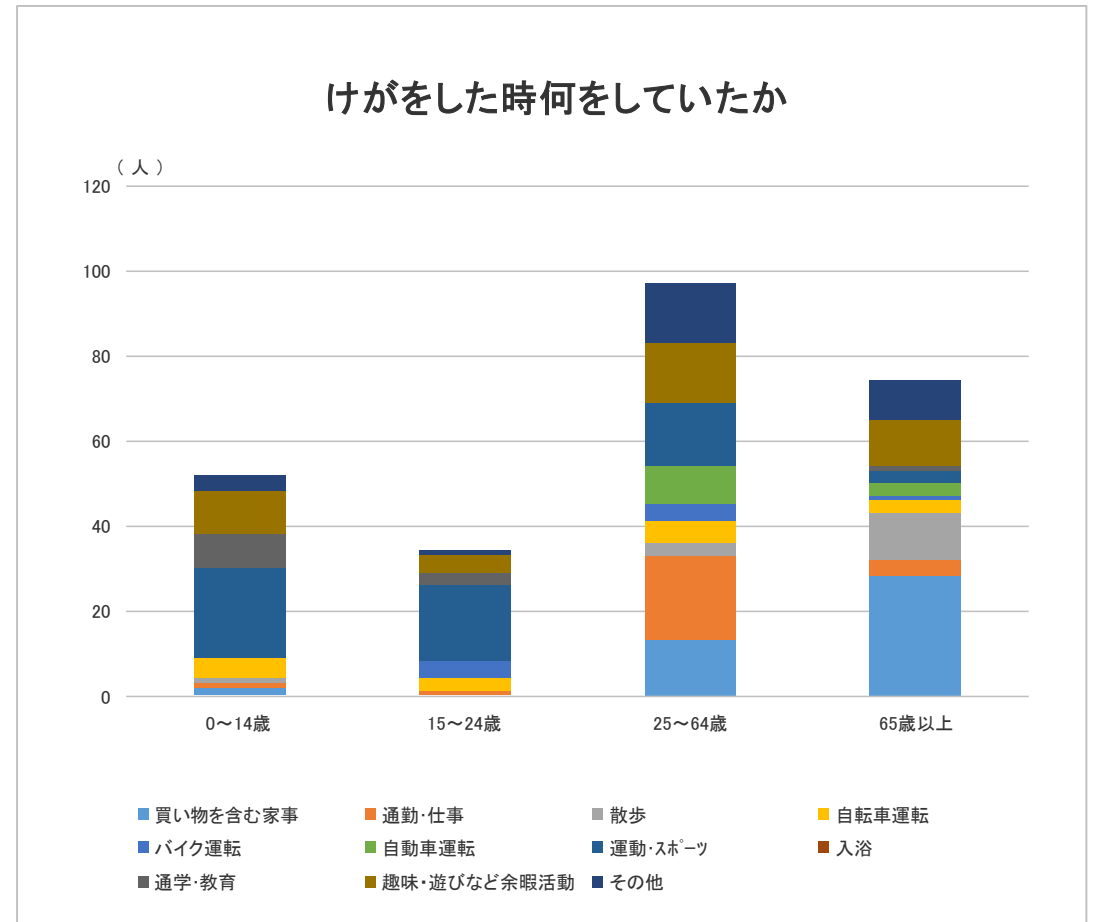
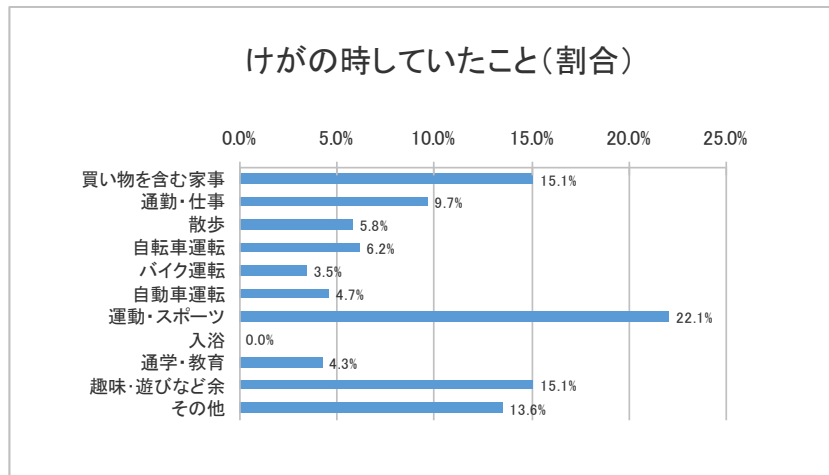
④けがをした時何をしていたか

[全体]

- ・けがをした時何をしていたかでは、「運動・スポーツ」が最も多く、次いで「買い物を含む家事」や「趣味・遊びなど余暇活動」が多い。

[年齢区分別]

- ・年齢区分別に見ると、24歳以下では、「運動・スポーツ」、25～64歳では「通勤・仕事」が最も多い。65歳以上では「買い物を含む家事」が最も多く、次いで「散歩」「趣味・遊びなど余暇活動」でのケガが多い。



※その他の事例

日常生活・・・歩いていた、階段を上っていた、ズボンをはいていた など

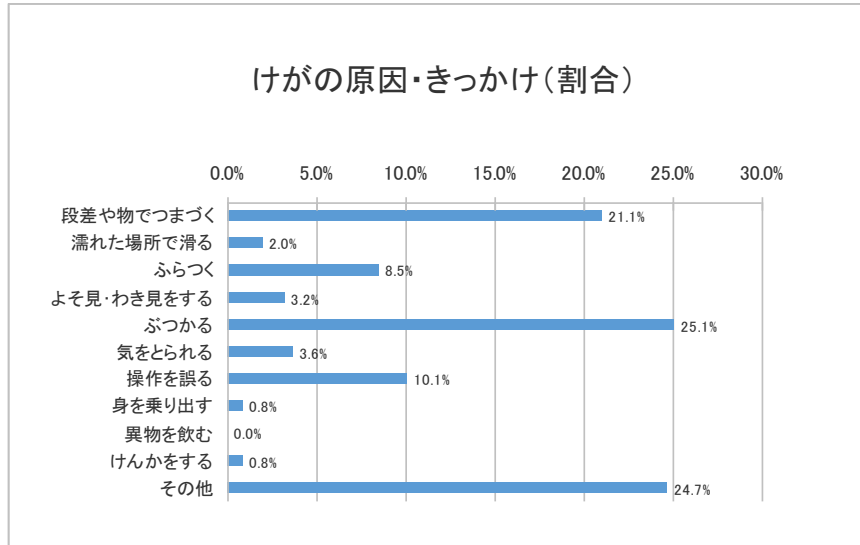
⑤けがの原因・きっかけ

〔全体〕

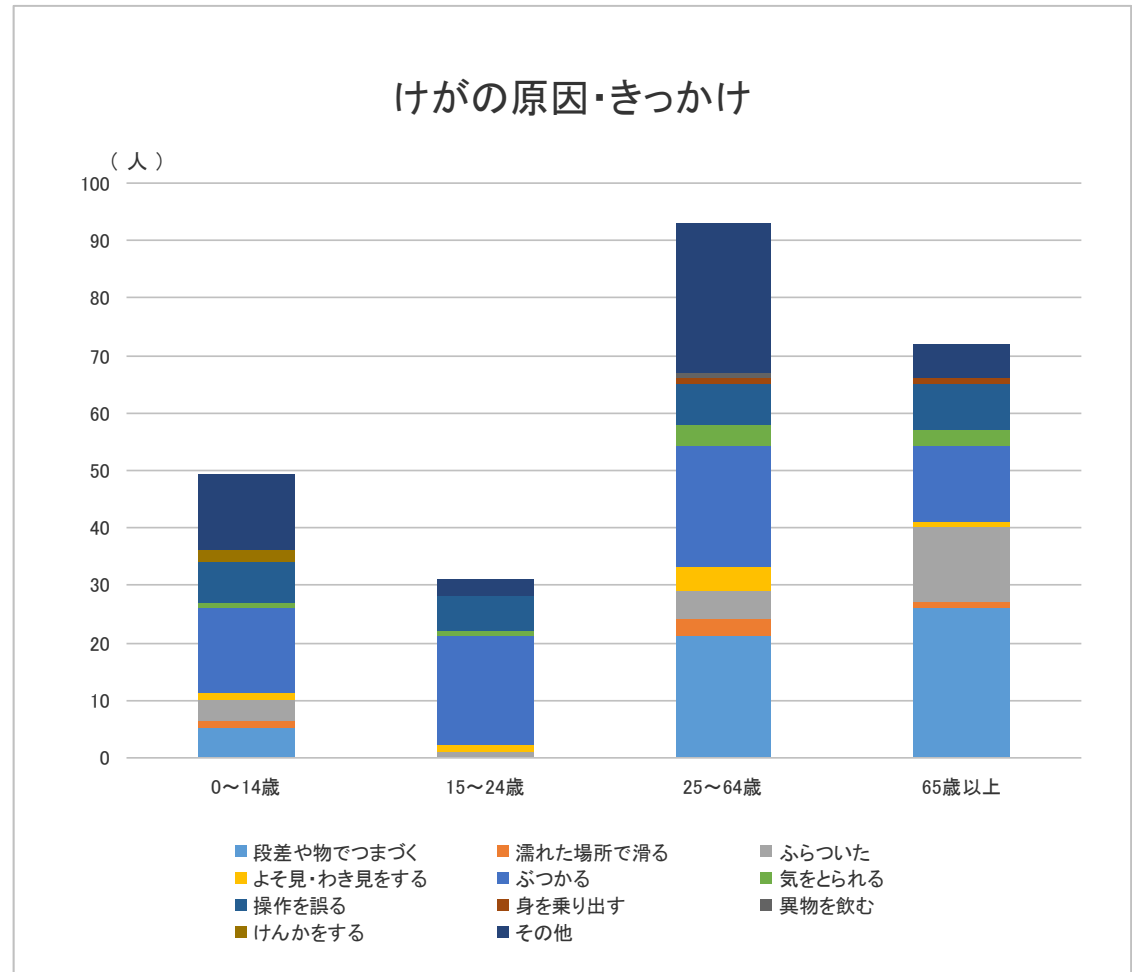
- ・けがの原因・きっかけは、「ぶつかる」が最も多く、次いで「段差や物でつまづく」が多い。

〔年齢区分別〕

- ・年齢区分別に見ると、全年齢層で「ぶつかる」が多く、65歳以上では、「段差や物でつまづく」や「ふらついた」が多い。



※その他の事例・・・子どもの足が車輪にからまった(2件)



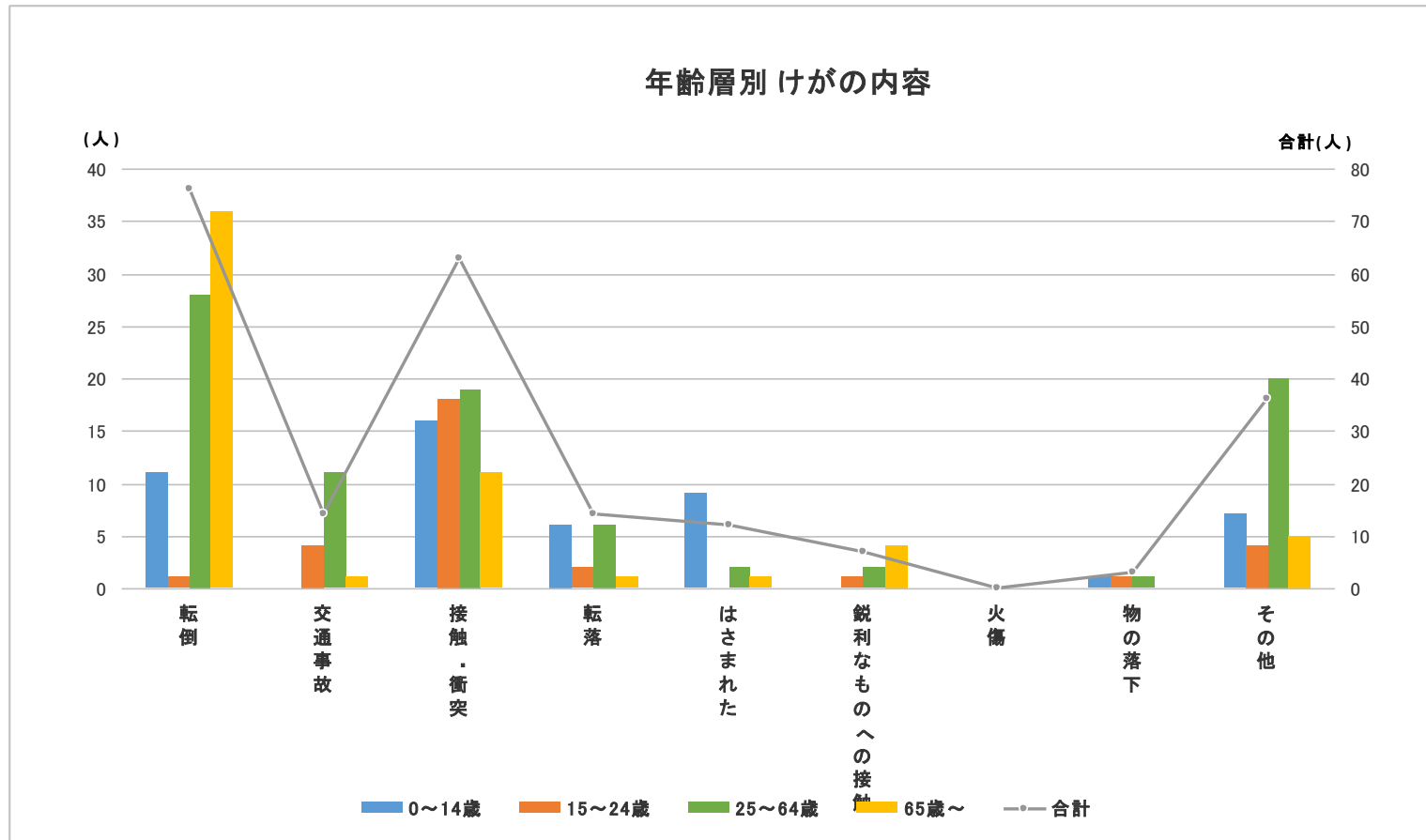
⑥けがの分類

[全体]

- ・けがの分類は、「転倒」が最も多く、次いで「接触・衝突」が多い。

[年齢区分別]

- ・年齢区分別に見ると、全年齢層で「接触・衝突」が多く、25歳以上、特に65歳以上では「転倒」が多い。



※その他の事例・・・手首を傷めた、ぎっくり腰、肉離れなどの症状を記載

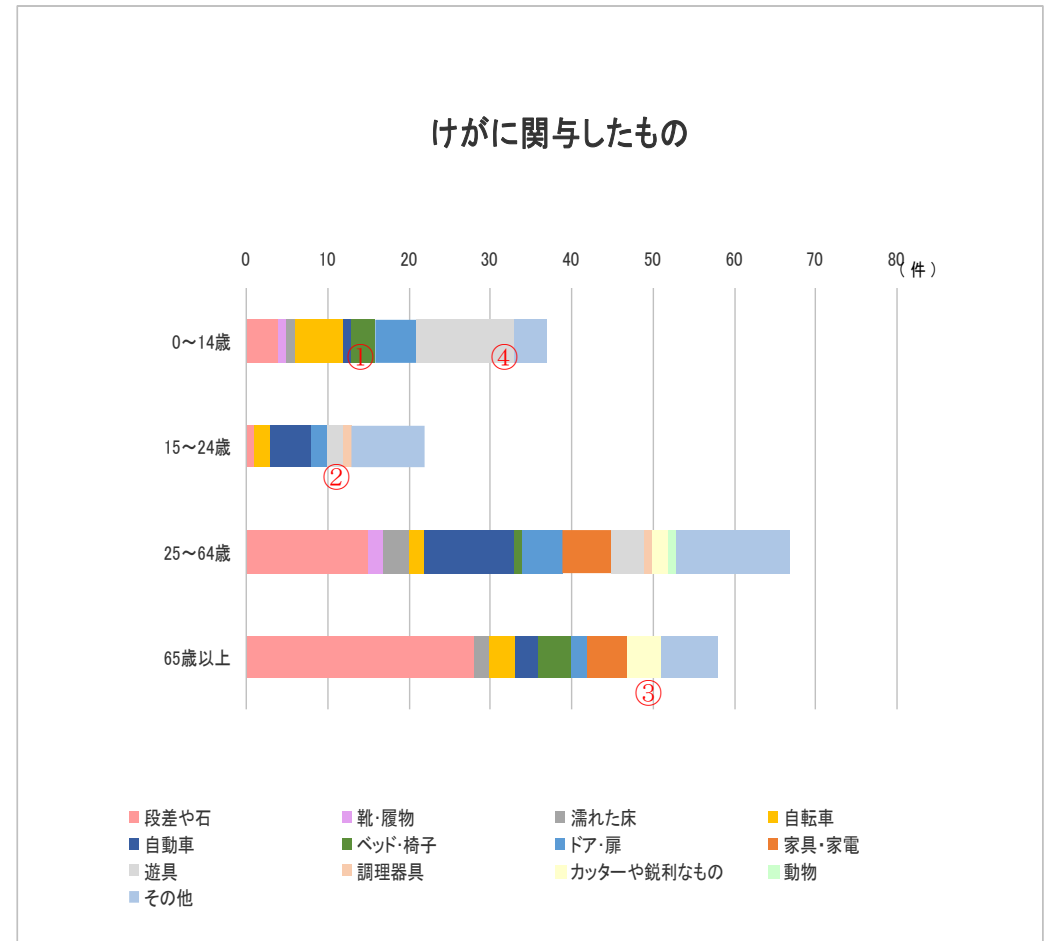
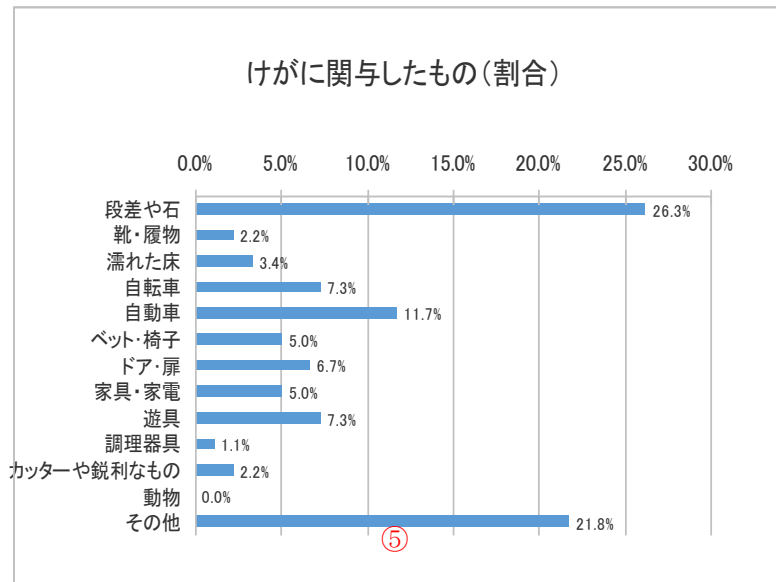
⑦けがに關与したもの

[全体]

- ・けがに關与したものは、「段差や石」が最も多く、次いで「自動車」が多い。

[年齢区分別]

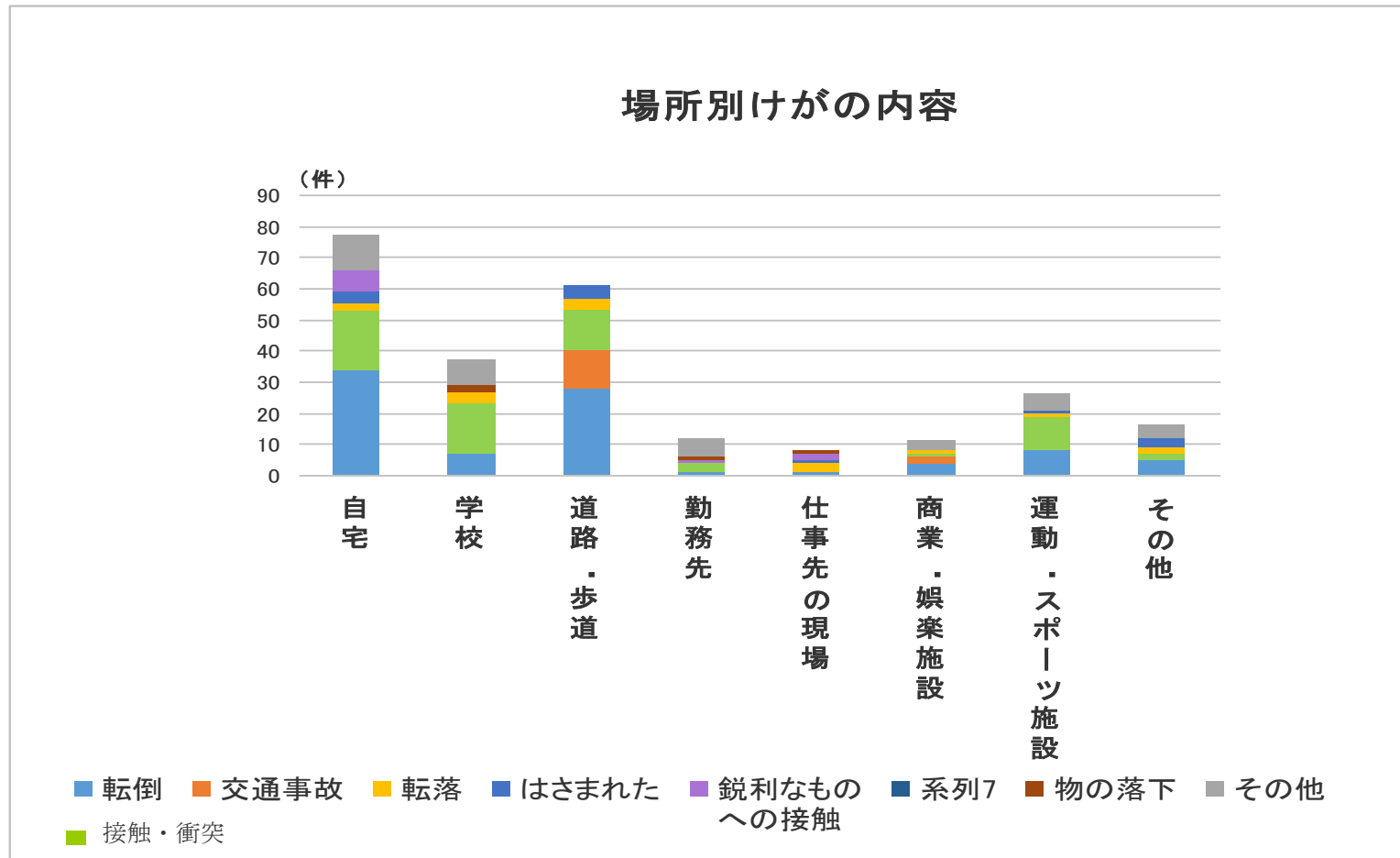
- ・年齢区分別に見ると、14歳以下では「遊具」や「自転車」、25～64歳では「段差や石」や「自動車」、65歳以上では「段差や石」が多い。



- ※①自転車の後部に乗っていて、足が車輪にからまった(2件)、
自転車の車輪で遊んでいた(1件)
- ※②運転中後方より車から追突される(全11件)
- ※③接触・衝突(4件)、転倒(1件)
- ※④バレーボール等ボール(3件)、鉄棒(1件)、ブランコ(1件)、
ウンテイ(1件) など
- ※⑤人(8件)、バイク(2件)など

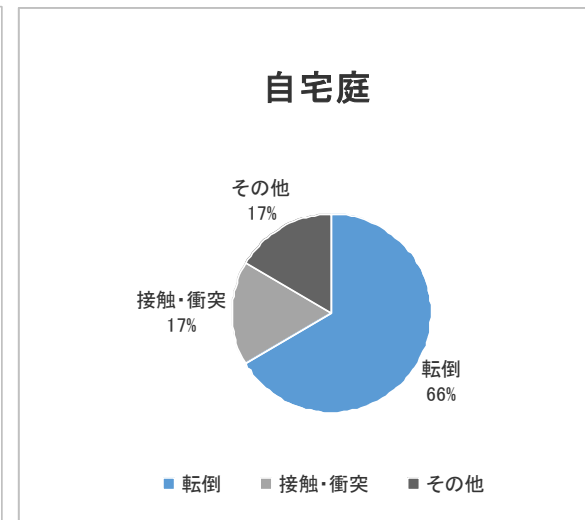
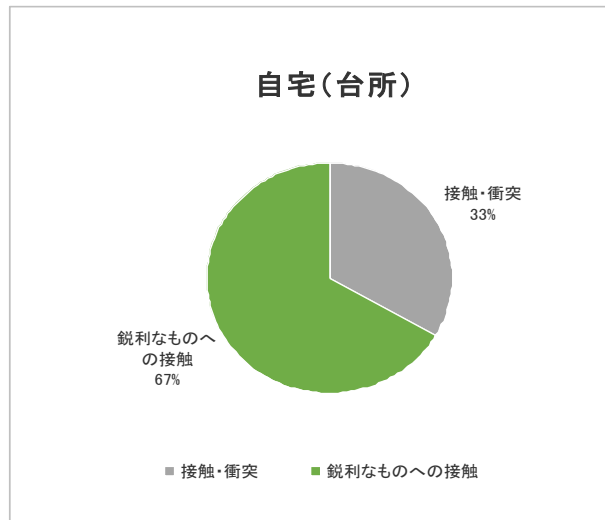
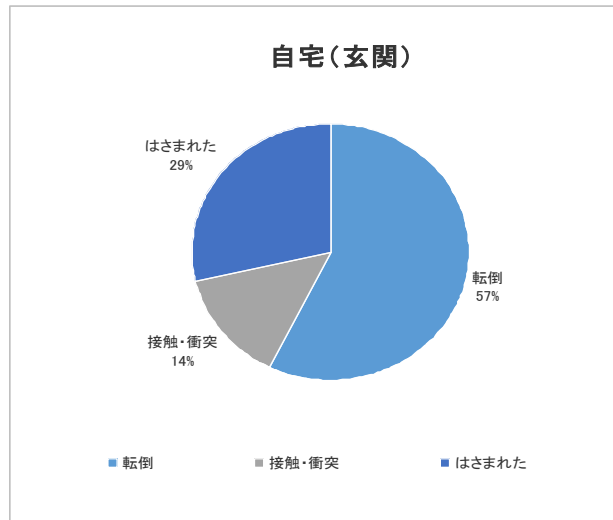
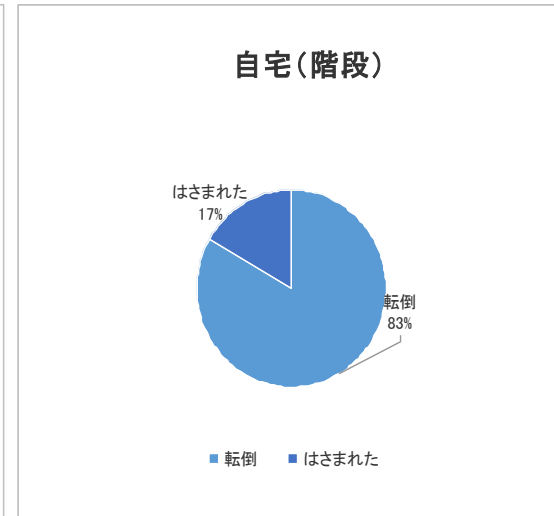
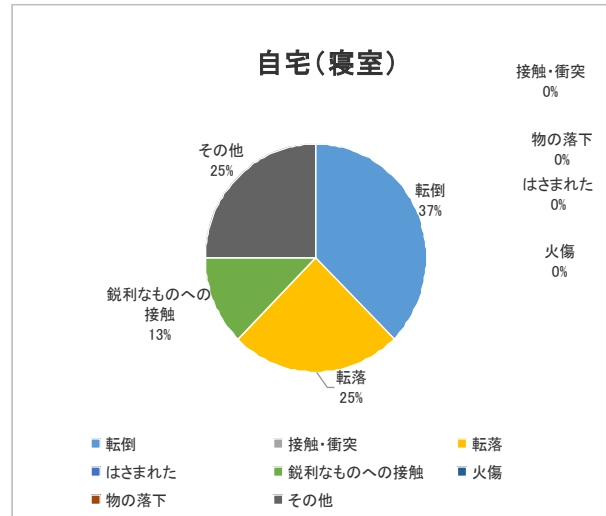
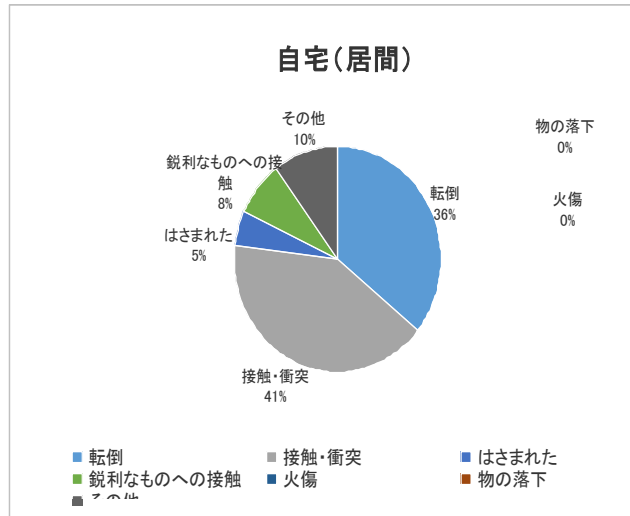
⑧-1 けがをした場所×けがの分類

- 自宅のけがは、「転倒」が最も多く、次いで「接触・衝突」、「鋭利なものへの接触」の順に多い。
- 学校のけがは、「接触・衝突」が最も多く、次いで「転倒」、「転落」の順に多い。
- 道路歩道のけがは、「転倒」が最も多く、次いで「接触・衝突」が多い。
- 運動スポーツ施設のけがは、「接触・衝突」が最も多く、次いで「転倒」が多い。



⑧-2 自宅内のけがをした場所×けがの分類

- ・居間でのけがは、「接触・衝突」が最も多く、次いで「転倒」が多い。
- ・玄関でのけがは、「転倒」が最も多く、次いで「はさまれた」、「接触・衝突」の順に多い。
- ・台所でのけがは、「鋭利なものへの接触」が最も多く、次いで「接触・衝突」が多い。



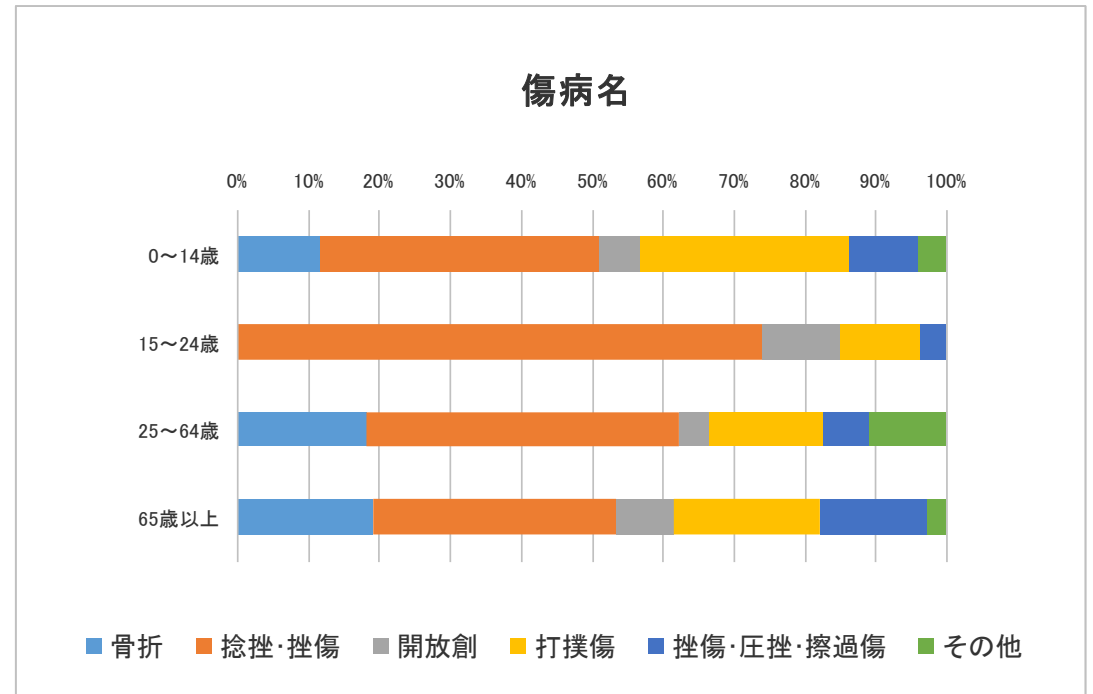
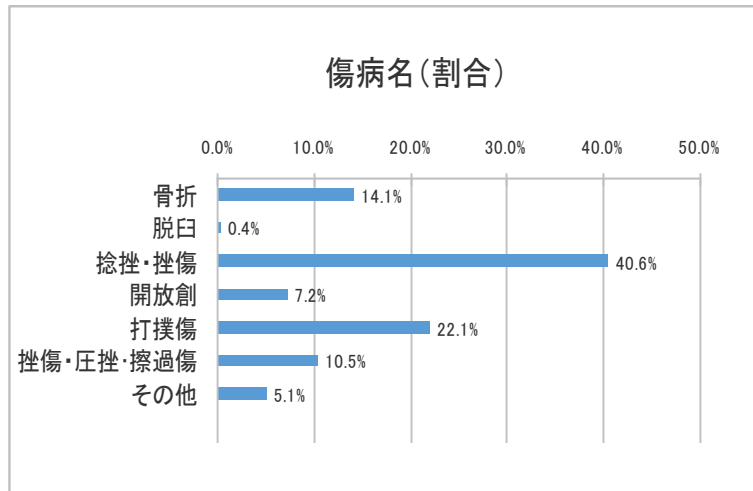
⑨傷病名

〔全体〕

- ・傷病名は、「捻挫・挫傷」が最も多く、次いで「打撲傷」、「骨折」が多い。

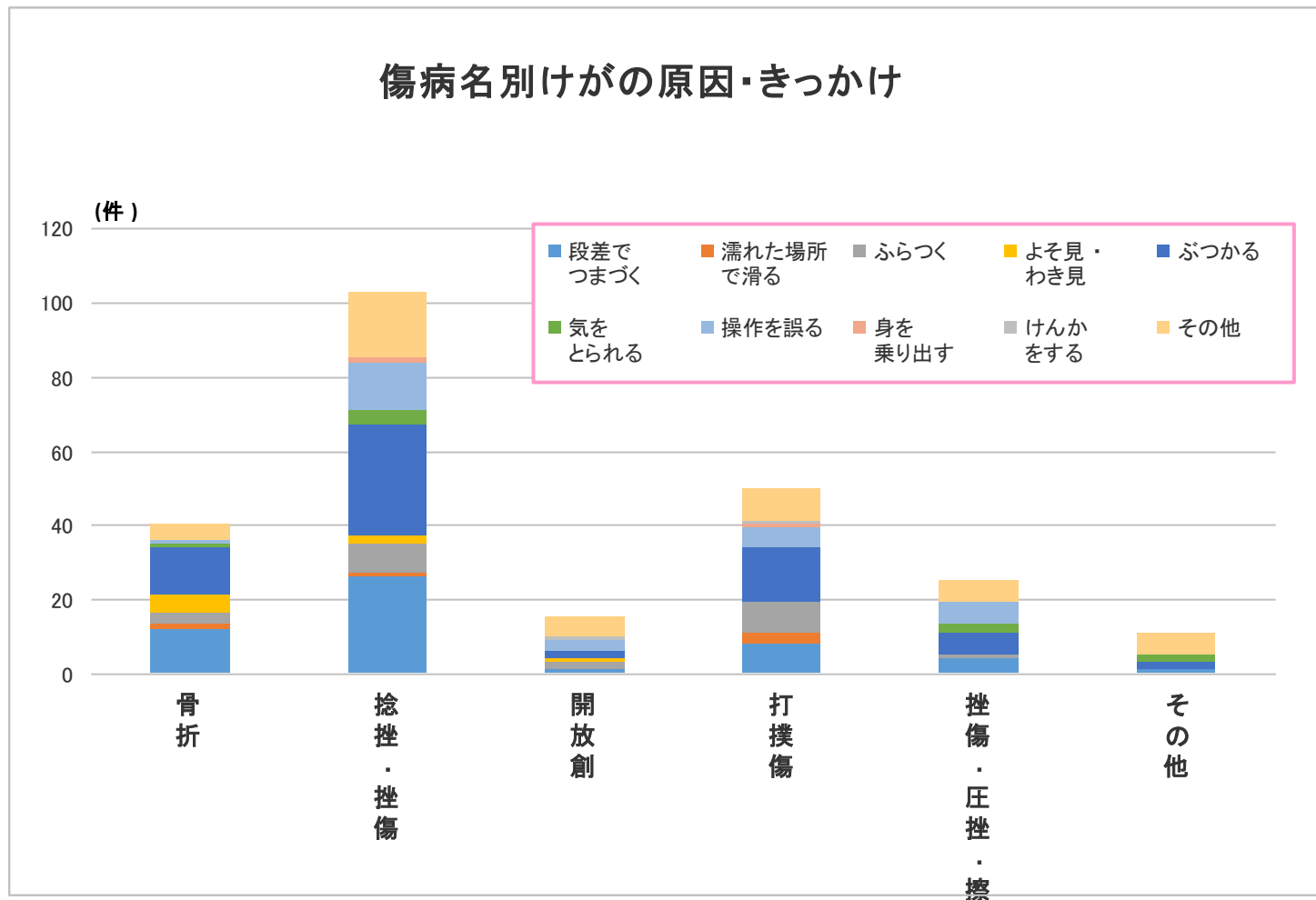
〔年齢区分別〕

- ・年齢区分別に見ると、全年齢層で「捻挫・挫傷」が多く、14歳以下では「打撲傷」、65歳以上では「打撲傷」や「骨折」が次いで多い。



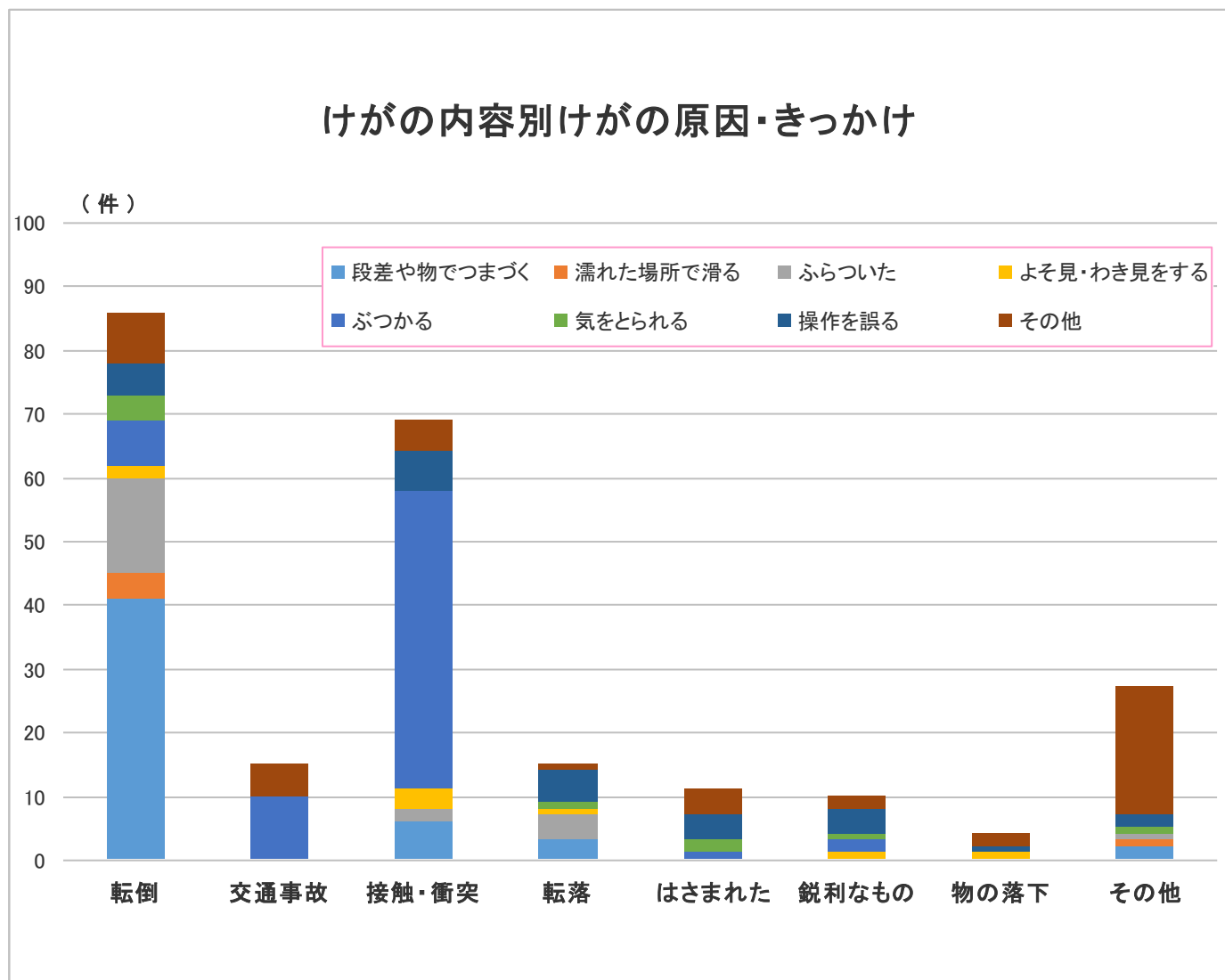
⑪ 傷病名×原因・きっかけ

- ・「骨折や捻挫・挫傷の原因」は、「ぶつかる」が最も多く、次いで「段差でつまづく」が多い。
- ・「打撲症の原因」は、「ぶつかる」が最も多い。



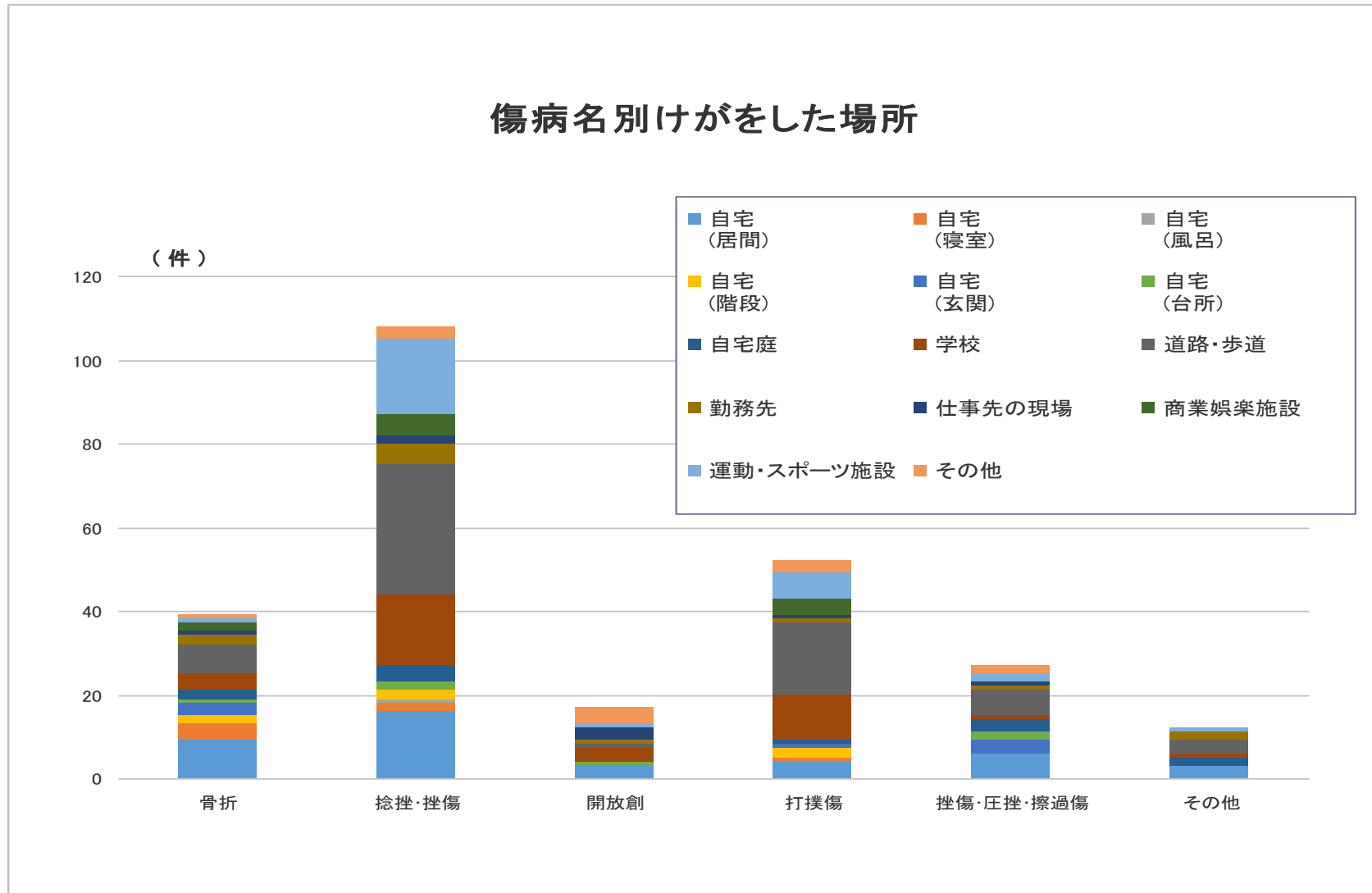
⑫原因・きっかけ×ケガの内容

- ・転倒の原因は、「段差や物につまづく」が最も多く、次いで「ふらついた」、「ぶつかった」が多い。
- ・転落の原因は、「操作を誤る」や「ふらついた」が多い。



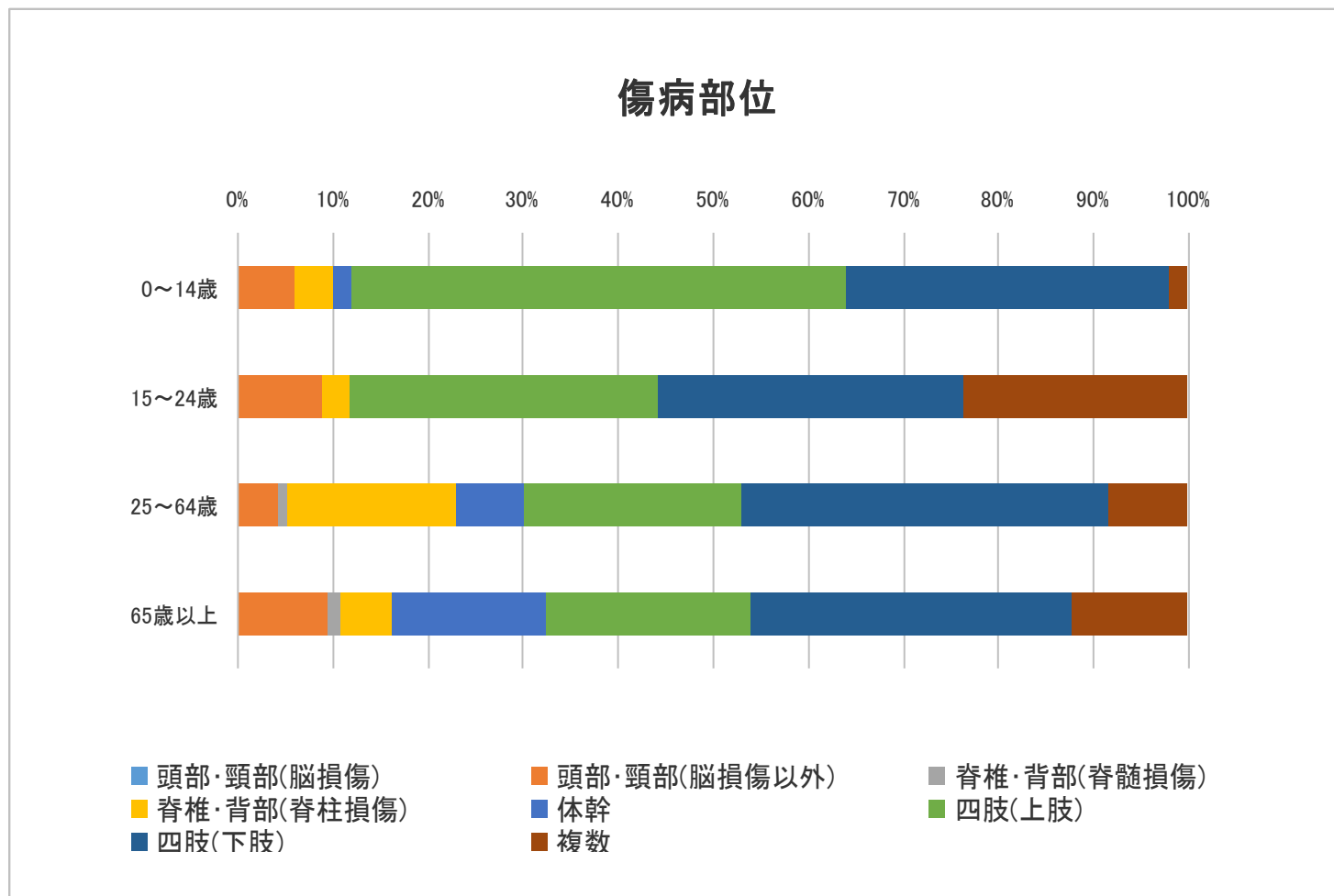
⑬傷病名×場所

- ・骨折の場所は、「自宅(居間)」や「道路・歩道」が多い。
- ・捻挫・挫傷の場所は、「道路・歩道」、「運動・スポーツ施設」、「学校」、「自宅(居間)」が多い。
- ・打撲症の場所は、「道路・歩道」や「学校」が多い。



⑭傷病部位

・年齢区分別に見ると、全年齢層で四肢(上肢や下肢)のけがが多く、14歳以下では上肢、25歳以上では下肢のけが多い。



⑮処置見込

・治療不要(0) ・即日治療完了(18) ・要通院(225) ・要入院(0) ・他院へ紹介(2) ・その他(2)



久留米市 セーフコミュニティ外傷発生調査 調査票（初診時）

久留米市では、事故やけがを予防するセーフコミュニティ活動を推進しており、医療機関のご協力を得て、原因を含む外傷の発生状況について調査を実施しております。この調査結果は、専門家による分析を踏まえ、事故やけがの予防対策に活用してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

ご協力いただける場合には、表面は受診者、裏面は医師によるご記入をお願いいたします。（受診者の付き添いの方が記入しても構いません。）この調査票では個人情報はお聞きしていません。また、結果は統計処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。なお、記入が難しい項目については、空欄のままで結構です。

今日の日付 _____年____月____日

年齢 満 歳	性別 男・女	住所 久留米市内・久留米市外	けがをした場所 久留米市内・久留米市外
受診された医療機関までの交通手段 徒歩・自転車・バス・タクシー・バイク/スクーター・車・救急車			

① いつけがをしましたか？

平成 _____年____月____日（ _____曜日） 午前・午後 _____時____分頃

② どこでけがをしましたか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1. 自宅（居間） 2. 自宅（寝室） 3. 自宅（風呂） 4. 自宅（階段） 5. 自宅（玄関） 6. 自宅（台所）
 7. 自宅庭 8. 学校 9. 道路・歩道 10. 勤務先 11. 仕事先の現場 12. 商業・娯楽施設
 13. 運動・スポーツ施設 14. その他（具体的に _____）

③ けがをしたとき、何をしていましたか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1. 買い物を含む家事 2. 通勤・仕事 3. 散歩 4. 自転車運転 5. バイク運転 6. 自動車運転
 7. 運動・スポーツ 8. 入浴 9. 通学・教育 10. 趣味・遊びなど余暇活動
 11. その他（具体的に _____）

④ けがをした原因・きっかけは何ですか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1. 段差や物でつまづく 2. 濡れた場所で滑る 3. ふらついた 4. よそ見・わき見をする 5. ぶつかる
 6. 気をとられる 7. 操作を誤る 8. 身を乗り出す 9. 異物を飲む 10. けんかをする
 11. その他（具体的に _____）

⑤ その結果、どのようにけがをしましたか？（○で囲んで、具体的な内容をお書きください。）

1. 転倒 2. 交通事故 3. 接触・衝突 4. 転落 5. はさまれた 6. 鋭利なものへの接触
 7. 火傷 8. 物の落下 9. その他（具体的に _____）

⑥ 受けたけがに関与したモノがあれば、それは何ですか？（○で囲んで、具体的な内容をお書きください。）

1. 段差や石 2. 靴・履物 3. 濡れた床 4. 自転車 5. 自動車 6. ベッド・椅子 7. ドア・扉
 8. 家具・家電 9. 遊具 10. 調理器具 11. カッターや鋭利なもの 12. 動物
 13. その他（具体的に _____）

⑦ けがをしたとき、何らかの安全策がとられていましたか？（○で囲んで、具体的な内容をお書きください。）

1. 手すり 2. 滑り止め 3. ヘルメット 4. 転落防止柵 5. 挟み防止 6. 鍋つかみ
 7. その他（具体的に _____）

医師記入欄

医療機関名

主たる診療科	1. 外科 2. 整形外科 3. 形成外科 4. 脳神経外科 5. その他
--------	---

重傷度の高い順に、上位3つの傷病名と傷病部位の番号をご記入ください

	傷病名	傷病部位
1		
2		
3		

傷病名	傷病部位			
	全身	脊椎・背部	体幹	四肢
1. 骨折	0. 全身	<u>脊髄損傷</u>	17. 胸部(胸郭)	<u>上肢</u>
2. 脱臼		7. 頸椎	18. 腹部	22. 肩・上腕
3. 捻挫・挫傷	頭部・頸部	8. 胸椎・脊椎	19. 骨盤・尿生殖器	23. 肘・前腕
4. 内臓損傷	1. 脳損傷	9. 腰椎	20. 体幹	24. 手首・手・指
5. 開放創		10. 仙骨・尾骨	21. 背部・臀部	25 その他
6. 切断	<u>脳損傷以外</u>	11. その他		()
7. 血管の損傷	2. 頭部	()		<u>下肢</u>
8. 打撲傷	3. 顔面	<u>脊柱損傷</u>		26. 股関節
9. 挫傷・圧挫・擦過傷	4. 眼	12. 頸椎		27. 大腿
10. 熱傷	5. 頸部	13. 胸椎・脊椎		28. 膝
11. 神経の損傷	6. その他	14. 腰椎		29. 下肢・足関節
12. 中毒・誤飲	()	15. 仙骨・尾骨		30. 足・足指
13. 溺水		16. その他		31. その他
14. 窒息		()		()
15. その他	()			

処置見込	1. 治療不要	2. 即日治療完了	3. 要通院
	4. 要入院	5. 他院へ入院	6. その他 _____

業 務		4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	摘 要	
SC推進組織		5/9 第1回 5/12 第1回 5/20 第1回 推進協議会		報告書準備 年間活動報告書提出 12月下旬 第2回	1月中旬 第2回 1月末 第2回 推進協議会		
対策委員会		4/中旬頃 第1回各対策委員会		11月上旬～ 第2回各対策委員会			
対策委員会 正副委員長合同会議			8月下旬～9月頃 正副委員長合同会議 ・フェスタ企画				
外傷等動向調査委員会		5/9 第1回	9月頃 第2回		3月頃 第3回		
		セーフコミュニティ フェスタ(2016)					
広報・啓発	セーフコミュニティの日	毎月21日実施 (館内放送・のぼり旗設置・青パト巡回・SC通信・街頭キャンペーンなど)					
	SCフェスタ	フェスタ実施に向け検討・準備					
	日めくりカレンダー (標語募集)	標語募集		最終調整 (正副委員長会議)	フェスタで表彰 発注	配布	
	団体SC宣言	発注		配布			
	他団体の説明	校区コミセン・小中学校PTA・大学など					

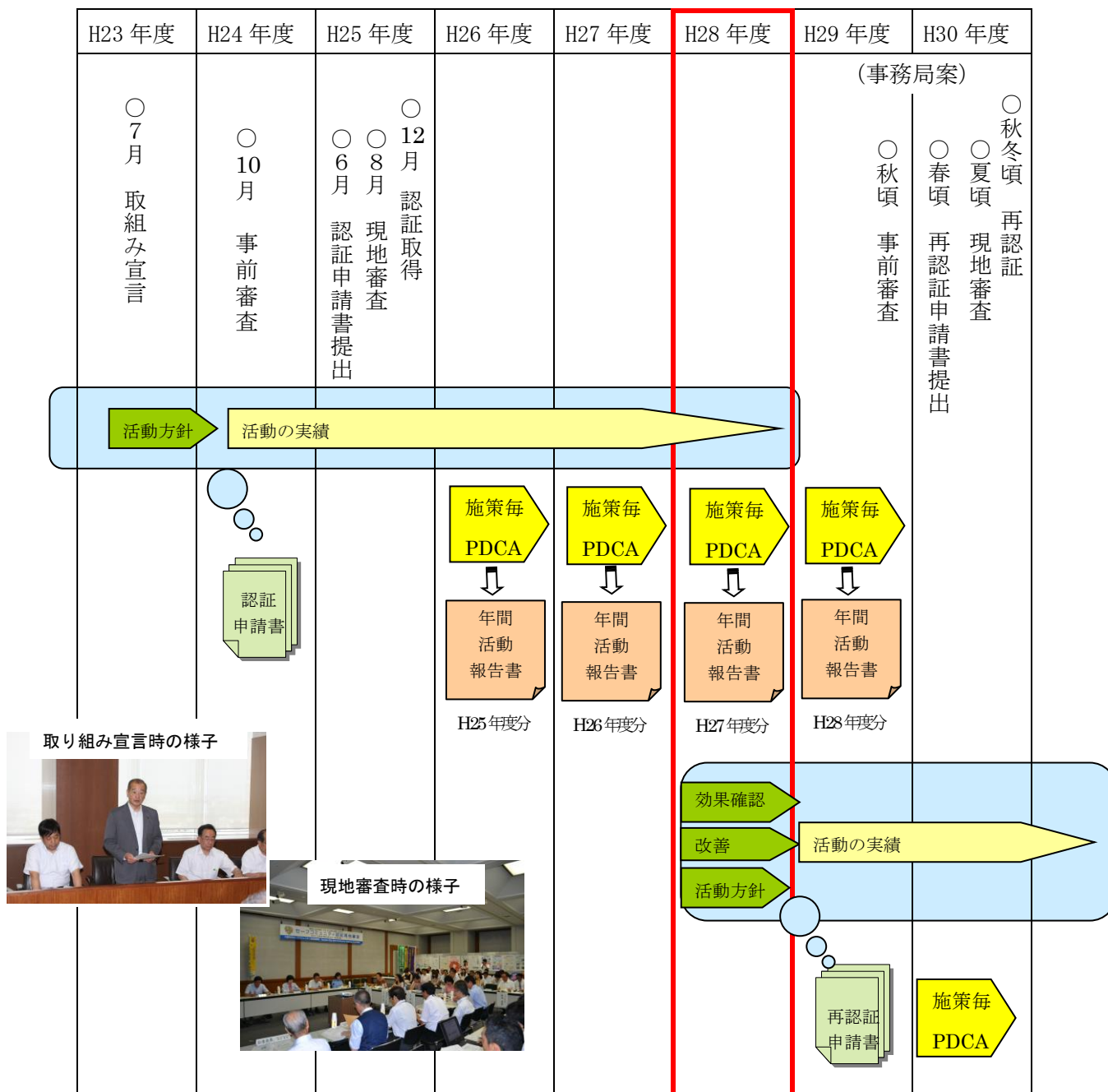
これまでの取り組みに関する効果確認・改善について

平成23年7月のセーフコミュニティ取り組み宣言にあたり、人口動態統計や救急搬送データ、また各課が所有する様々なデータ等に基づき、重点取り組み分野・項目を設定後、48の具体的施策の活動方針を定め（PLAN）、これまでの活動の実践（DO）につなげています。（別紙1参照）

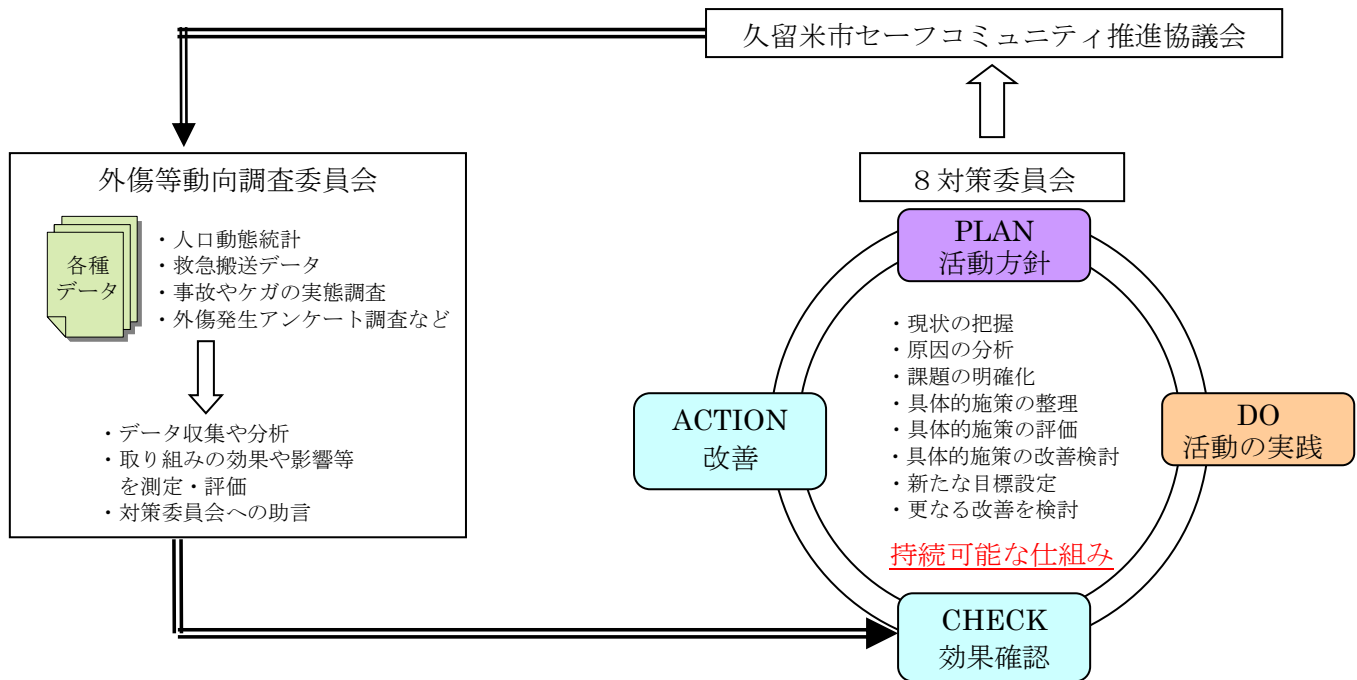
また、認証取得後の平成26年度からは、48の具体的施策毎に、データを活用し、年度毎の実績・改善点・次年度の課題整理（PDCA）を図り、年間活動報告書として、SC認証センターへ提出しています。

平成28年度については、再認証取得を目指し、重点取り組み分野・項目・具体的施策について、これまでの効果確認（CHECK）、改善（ACTION）を図っていく予定です。

(1) 再認証に向けたスケジュール



(2) 効果確認・改善のイメージ

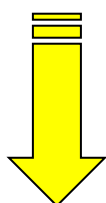


(3) 外傷等動向調査委員会の今後の開催予定について

	開催時期	内容(予定)
第1回 (H28年度)	H28.4月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷発生アンケート結果の報告 (H27年10月～12月) ・28年度のスケジュールの確認 ・統計データやアンケートの過去5年分(平成23年度～平成27年度分)を収集。
第2回 (H28年度)	H28.9月頃	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回SC推進協議会で承認された平成27年度実績、平成28年度取り組み方針の報告 ①各種データの収集結果に基づき効果の測定や評価 ②分野、項目、取り組み施策への専門的な指導・助言など
第3回 H28年度	H29.3月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会で効果確認・分析され、第2回推進協議会で承認を得た計画について報告。

～～〈参考〉対策委員会のスケジュール～～～～～～～～～～

第1回会議(4月) 【主な議題】「これまでの取り組みに関する効果確認・改善について提案」



この間、対策委員会にて、

- ・重点取り組み分野・項目、具体的施策の設定に活用したデータの再収集・整理
- ・具体的施策の効果確認・改善について検討

などを行い、第2回対策委員会で報告(案)を提示する。

事務局
報告(案)

第2回会議(11月頃) 【主な議題】「これまでの取り組みに関する効果確認・改善について(協議・決定)」
「平成29年度からの具体的施策の決定」等